

新たに開花結実した温室植物

磯 部 実

サガリバナ

Barringtonia racemosa (L.) K. Spring.

本種は1988年、種苗商より導入し、大温室に植栽した。

現在、樹高は2 m、目通り周は30cmに成長している。この固体はこれまで1～2花序の開花は数回見られたが、本年は約10花序をつけ、十分観賞展示できたので報告する。

8月上旬より花序を伸ばしはじめ、8月下旬～9月上旬の2週間花を観賞することができた。

花の特徴は次のようであった。1花序に約60輪つけた。雌蕊は赤色で、長さ55mm、雄蕊は白色が目立ち、雌蕊より短い。花弁は緑色で4枚あり長さ20mm、がく片は4枚で長さ10mmであった(写真1)。数カ月後には1花序に2～3個の結実が見られた。果実は石果であった。



写真1 サガリバナ

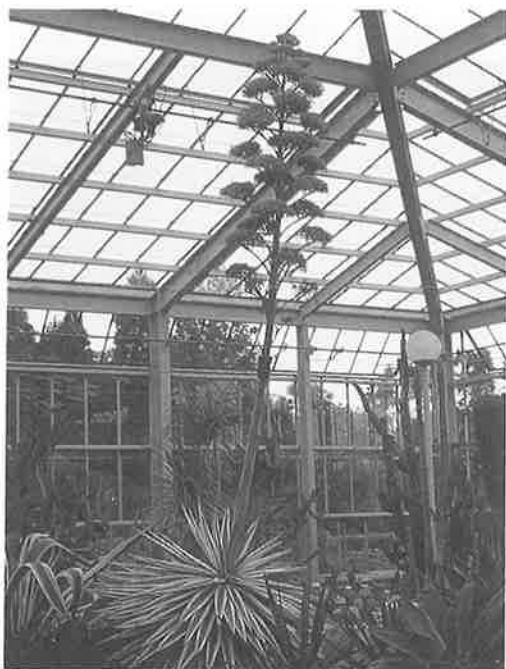


写真2 ファイリウスパリュウゼツ



写真3 ミダレユキ

フイリウスバリュウゼツ

Agave angustifolia Haw cv. *Marginata*

本種は1978年にサボテン温室に数株を植栽した。すでに1986年6月、1994年6～8月に開花している(栽培記録10号、16号)が、別株が開花したので報告する。当園での本種の開花は3度目である。

今回は4月より花茎を伸ばしはじめ、7月上旬開花をはじめた(写真2)。約1ヶ月間花を見ることができた。その他開花状況及び花の各部の測定結果は前報と同様であった。

ミダレユキ

Agave filifera Salm-Dyck

本種は1978年にサボテン温室に地植えたもので、1986年に他の株が開花しているが(栽培記録10号)、それ以降開花は見られなかった。しかし1995年6月ごろから花茎が伸びはじめ、7月には開花した(写真3)。開花時の花茎の長さは約200cmであった。その他の記録は前報と同様であった。

今回は、前回報告のなかった果実(さく果)の形成がみられ、開花の約5ヶ月後に採種した。果実は5果形成し、1果に約30個の種子があった。

アブラヤシ

Elaeis guineensis Jacq.

本種は1976年に大温室に植栽後、数回、少数の開花、結実のみられたが、多数の結実のみられたのは1995年の夏であった(写真4)。本種は現在樹高約10m、幹周2mである。

オニニカナボウ

Pachypodium rutenbergianum Vatke

1976年の開園当初から大温室に植栽した株で、現在樹高は3.5m、幹周20cmに成長している。

これまでオニニカナボウは、サボテン温室で1992年に開花している(栽培記録14号)。

大温室に植栽した個体が、1995年9月に初めて開花したので記録する。

花は2花序につき、白色で、中心は黄色で直径は60mm、長さ25mm。散形花序に8輪と3輪をつけた(写真5)。開花時期は約2週間であった。結実はなかった。



写真4 アブラヤシ



写真5 オニニカナボウ